日本科学者会議

福岡支部ニュース

2007年6月20日発行 No.190

日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15

Tel (03)3812-1472

福岡支部事務局

事務局長 青野雄太

〒819-0395 福岡県西区元岡 744

九州大学大学院工学研究院機械科学部門

Tel: 092-802-3281, FAX: 092-802-3065

Email: aono@mech.kyushu-u.ac.jp

郵便振替 01790-1-5576

目次

1	福岡支部 第 37 回定期大会の報告	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2	研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」学習会の報告	•	•	•	•	•	•	•	•	9
3	談話会のお知らせ	•	•	•	•	•	•	•	•	9
4	福岡環境研究会のお知らせ	•	•	•	•	•	•	•	•	10
5	「日本の科学者」読書会と夏期合宿のお知らせ	•	•	•	•	•	•	•	•	12
6	エネルギー研究会のお知らせ	•	•	•	•	•	•	•	•	12
7	次期大会の日程について									12

1 福岡支部 第 37 回定期大会報告

2007 年 5 月 12 日 (土) 15 時 45 分 ~ 17 時 00 分、久留米大学福岡サテライトにおいて定期大会を開催しました。

1.1 2006 年度活動報告

1.1.1 福岡支部活動記録

8/1

9/2

9/4

研究報告「エネルギーと持続可能な社会」 エネルギー研究への誘い 藤井哲、 5/13「海外の短期高等教育に学ぶ」 日本型コミュニティカレッジの可能 性 藤井美保 福岡支部幹事会 (第一回) 九大農学部組合室 5/225/27福岡環境研究会5月例会(テーマ:石油が安い時代は終わったのか?-ピーク・オ イル時代と農業 - ,講師: 今村和彦) 6/12日科読書会 6/24JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第1回) 6/25工学部班読書会 「技術と自然の未来を探る」 福岡環境研究会7月例会(テーマ:「人も生き物も集まるキャンパス:環境創造舎 7/8のあゆみとみらい」 - 九大新キャンパスの生き物たちとの共生から - , 講師: NPO 法人環境創造舎 比良松道一他3名) 7/10日科読書会 7/28JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第2回)

原水禁科学者集会参加(横浜,岡本)

福岡支部幹事会 (第二回) 九大農学部組合室

8/21~22 日科読書会合宿(「成長の限界」)

1

福岡環境研究会9月例会(テーマ:「風車の話」,講師:松宮煇)

- 9/4支部談話会(「生徒から学生への移行過程における課題~学生相談の観点から~」, 田中健夫) 9/9JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第3回) 日科読書会 9/1110/2日科読書会 10/7環境シンポジウム (久留米分会) 10/14JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第4回) 10/21~22 第8回地方自治研究全国集会参加(福岡,梅木) 日科読書会 11/1311/18JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第4回) 11/25~26 九州シンポ (大分市) 11/30北九州分会談話会(話題:教育基本法「改正」問題とその周辺) $12/1 \sim 3$ 第 16 回総合学術会議 (藤井, 梅木) 12/2福岡環境研究会12月例会(テーマ:クラインガルテン(家庭菜園)は日本の自給率 をアップする、講師:河内俊英) 「本八日未明! + 1 集会」(65年前の太平洋戦争を振り返って,主催: JSA福 12/9岡、九大九条の会、後援: 九大同窓生九条の会、六本松九条の会) 12/11日科読書会 12/11福岡支部幹事会(第三回,びおとーぷ加入) 12/22北九州分会談話会 1/8 日科読書会 1/13エネルギー研究会 日科読書会 2/5福岡支部幹事会 (第四回) 2/52/10JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第5回) 福岡環境研究会2月例会(テーマ: 筑後川流域の風景と環境問題, 講師:池田洋介) 2/173/12日科読書会 JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第6回) 3/244/9日科読書会 JSA 福岡支部エネルギー研究会 (第7回) 4/144/21福岡環境研究会4月例会(テーマ:循環型地域社会形成に関する参加型社会システ
- 会 副委員長 湯淺精二) その他 「日本の科学者 / 科学者つうしん」2007 年 1.3.5 月号

1.1.2 「日本の科学者」読書会

5/12

「日本の科学者」読書会は毎月第 2 月曜日 $14:00\sim17:00$ に開催を続けている.参加者は約 10 名で,変化なし.毎回議論が活発で時間が不足気味である.今年から会場を西新プラザから JR 博多駅近くの「びおとーぷ」に変更した.会場費は若干高くなるが,平均的に交通費と時間の節約になるからである.また使用時間の制限も緩和される好都合がある.8 月 $21\sim22$ 日には第 3 回夏の合宿を早良区の湧水千石の郷で行った.D.メドウズ他,枝広淳子訳「成長の限界 人類の選択」を 8 名の参加者が各章を分担して報告・討論した.この著書の要約と意見のまとめを支部ニュース No.186 に載せた.地球規模でシリアスな現実が進行していることを理解するのによい本です.「日本の科学者」の特定の論文だけに興味がある方も,不定期でもかまいませんので,参加を歓迎します.

ムと市民行動について 地域の廃棄物問題への取り組みから ,講師:近藤加代子)

研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」案の学習会 (講師:科学者の権利問題委員

1.1.3 福岡環境研究会

福岡環境研究会は、所属する班のない個人会員(点在会員)を中心に発足し、今年で10周年を迎える。原則として月に1回例会を開催してきたが、事務局の多忙化などにより毎月の例会開催が困難となり、それに呼応するかのように参加者数も減少してきたことは、昨年の報告で述べたとおりである。

そこで、2006年度は思い切って例会の開催を2ヶ月に1度とした。これにより、事務局の負担が 軽減され、以前に比べて準備がしやすくなった。例会のお知らせも少し余裕をもってご案内できるよう になったせいか、参加者も再び増加してきている。

また以前は、年間1000円の会費を支払っていただいた方を正会員としていたが、例会に参加したときに支払っていただくという形をとらざるを得ないため、確実に徴収することができず、特定の会員の会費と福岡支部より給付される活動援助金(例会1回につき1000円)で運営がなされているのが実態であった。しかし、正会員と臨時会員とで待遇が異なるわけでもないので、結局は特定の会員によるカンパにより成り立っていたのも同然であった。

そこで、2007年の2月例会より、参加費として1人100円を当日会場で支払っていただくようにした。参加者には気持ちよく協力していただき、活動資金の点で改善がなされた。

なお、2006年度の例会実績は以下の通りである。

5月例会 テーマ:石油が安い時代は終わったのか?

- ピーク・オイル時代と農業 -

講 師: 今村和彦 (熊本大学医学薬学研究部 環境保健医学分野)

日 時:5月27日(土曜日)午後5時~6時30分

場 所:久留米大学福岡サテライト

7月例会 テーマ:「人も生き物も集まるキャンパス:環境創造舎のあゆみとみらい」

- 九大新キャンパスの生き物たちとの共生から -

講 師:NPO法人環境創造舎 比良松道一(九州大学農学研究院助手)

井田順子 立木佑弥 谷之木志章 (九州大学農学部)

日 時:7月8日(土曜日)午後3時30分~

場 所:久留米大学福岡サテライト

9月例会 テーマ:風力発電と風車のはなし

講師:松宮 煇(九州大学大学院工学研究院教授)

日 時:9月2日(土曜日)午後4時~6時

場 所:久留米大学福岡サテライト

12月例会 テーマ:クラインガルテン(家庭菜園)は日本の自給率をアップする

講 師:河内俊英(久留米大学医学部)

日 時:12月2日(土)午後4時~ 場 所:久留米大学福岡サテライト

2月例会 テーマ:筑後川流域の風景と環境問題

講 師:池田洋介氏(写真家)

日 時:2月17日(土)午後4時~ 場 所:久留米大学福岡サテライト 4月例会 テーマ:循環型地域社会形成に関する参加型社会システムと

市民行動について - 地域の廃棄物問題への取り組みから -

講師:近藤加代子(九大芸術工学部・環境経済学)

日 時:4月21日(土曜日)午後4時~5時30分

場 所:久留米大学福岡サテライト

1.1.4 エネルギー研究会

支部のエネルギー研究会は「食料とエネルギー」を主題に勉強会を始めた、今年もそれを続けると共に、エネルギーの基礎を勉強したい、現在会員数 8 名、今後は原則として、第 3 土曜日の $14:00 \sim 17:00$ に開催する予定である、現在のところエネルギー・環境・食料など広範囲の問題について気楽に情報交換をしている、12 月 $1\sim3$ 日に開かれた第 16 回総合学術研究集会で,第 8 分科会「世界と日本のエネルギー問題」で「燃料とエネルギーの節約」について報告した(支部ニュース No.188 参照)、再来年度の総学には纏まった研究を発表できるようにしたい、本研究会への参加を歓迎します。

- 第1回 日時 2006年6月24日 14:00~17:00 場所 九大西新プラザ3F談話室主な話題; Antony F.F.Boys の論文「日本における農業とエネルギー 21世紀の食糧事情を考える 」
- 第2回 日時 2006年7月29日 14:00~17:00 場所 九大西新プラザ 中会議室第1回の続きの討論,文献紹介;コーンエタノール
- 第3回 日時 2006年9月9日 14:00~17:00 場所 九大西新プラザ 中会議室第16回 JSA 総合学術研究集会に提出予定原稿「燃料とエネルギーの節約」について説明.文献紹介;農業情 報研究所の環境やバイオ燃料等に関する資料
- 第4回 日時:2006年10月14日(土) 場所 福岡 NPO 協同事務所「びおとーぷ」、文献紹介;山羊について, 石油価格高騰時代の農業と食,エネルギーチェーン,「誤解だらけのエネルギー問題」,「大江戸エネルギー事情」,「水稲栽培における投入エネルギーの推定」,「バイオマス利用と市域農業・農村の活性化」
- 第 5 回 日時: 2006 年 11 月 18 日 場所: 福岡 NPO 協同事務所「びおとーぷ」、「山羊を飼育するための具体的方法」「畜産と環境問題」
- 第6回 日時 2007年1月13日 場所:福岡 NPO 協同事務所「びおとーぷ」. 千矢博道著「これからやりたい人の小型水力発電入門 身近な水力利用術」の解説
- 第7回 日時:2007年2月10日 場所:福岡 NPO 協同事務所「びおとーぷ」. 養豚をめぐる諸問題 (食品のリサイクル,障害者雇用,共育システム等)

1.1.5 久留米分会

環境シンポジウム

久留米の「ゴミ減量をさらに減らすためにいま市民がやれること」ということで、以下のようなシンポジウムを開催しました。主催は「久留米の自然を守る会」と「ゴミ問題連絡会」、「筑後川流域連携倶楽部」、JSA 久留米班は共催として参加しました。

市民だけでやるよりも、久留米市に加わってもらって、一緒に考えることが重要ということで、久留 米市の担当部局環境部に申し入れましたが、(怖がって??)良い返事が得られませんでした。

止む無く江藤市長宛にパネリスト派遣のお願いを出しまして、講師を派遣いただけるようになりま した。

また私達中心の開催では市は参加し難いようなので、筑後川流域連携倶楽部との共催とし、連携クラブ理事長の久留米大学経済学部・駄田井 正教授にコーディネーターをお願いしました。

開催日時は以下のようでした 2 0 0 6 年 1 0 月 7 日 (土) 13:30~16:00 開催場所は、久留米大学御井学舎としました。

内容としては

- 1.「大木町の有機廃棄物リサイクルの取り組み」ということで、大木町職員の境公雄氏にお願いしました。大木町では、生ゴミはじめ酪農排泄物、し尿も含めて、ガスプラントでバイオガスを取り出し燃料として使用する、また残った液肥は農地還元して肥料にするという画期的事業を始めました。つまり生ゴミは焼却せず、またし尿処理場も不要ということになります。
- 2. 久留米市議の石橋剛氏には議会で発表された「ゼロウエースト(ゴミゼロ)を目ざそう」という ことで、持論を紹介いただきました。
- 3. 飲食店から出る生ゴミのリサイクルを実践している「くるめ大地といのちの会」白仁田氏に事業 を紹介していただいた。生ゴミで堆肥をつくり、畑に還元して野菜を栽培して、お店でできた野菜を使うという試みです。
- 4. 久留米市の吉田茂課長には、「久留米市のゴミ減量の実情について」、報告いただきました。
- 5. 当会の河内は、日本でも実施可能な欧米のゴミ処理方法について紹介しました。具体的には、焼却ゴミの削減のために生ゴミを燃やさず、堆肥化することと、大木町方式でバイオガス化する二つがあります。ただガス化はとりあえずは、余力のある下水処理場を利用して、生ゴミを処理場に持ち込みガスを発生させ、久留米市ガス企業局の都市ガスに混ぜて利用することが可能であることを紹介しました。新潟県・長岡市では下水処理場で発生したガスを民間ガス会社に販売している実例があります。

また、欧米ではゴミ焼却場の周辺でガンが多発しているなどの問題を中心にゴミの焼却処理の安全性が問われていることを紹介しました。

シンポジウムは、努力の甲斐があって、久留米大学の学生も含め予想外の参加がありました。また感想アンケートには、「境さんによる大木町の事業の話」と河内の「欧米のゴミ処理方法」の話しは改めて詳細に聞きたいと再度のシンポジウムの要請もあっており、成功裏に終了しました。

1.1.6 工学部班

「技術と自然の未来を探る」「地球環境の基礎知識 はじめてみる? 環境のこと」の読書会を 2 ヶ月に 1 度のペースで行なっていたが、昨秋より休業状態である。主な原因は参加者の多忙化である。残念な がら再開の見通しは立っていないが、全メンバーはエネルギー研究会にほぼ参加しているので、その中で今後の活動について考えていきたい。

1.1.7 北九州分会

11月8日と12月22日に談話会を開催した。

1.1.8 活動のまとめ

このほか、幹事会と平行して談話会を開催し会員に参加を呼びかけたが、地理的・時間的な問題のせいか残念ながら、幹事以外の参加は得られなかった。会員の知人にも参加を呼びかけて、会員獲得のきっかけにしたいとの意図もあったが実現できていない。多忙化の中こういった活動が行ないにくい状況にあるが、何かきっかけをつくりたいところである。

対外的には第8回地方自治研究全国集会に実行委員として梅木会員が参加し、また九州シンポ(大分市)には西垣会員と佐藤会員が報告を行なった。12月には九大九条の会、九大同窓生九条の会、六本松九条の会との共催で「本八日未明!+1集会」(65年前の太平洋戦争を振り返って)を開催し、JSA福岡からは藤井哲会員が報告を行なった。全体的に評判は良かったが残念ながらJSAからの参加者は少なかった。一方で、会員それぞれが各方面で改憲問題・平和問題に取り組んでおり、これら相互の関係を強化していくことが必要だと思われる。

1.2 2007 年度活動方針

(1) 憲法問題に関するシンポジウムを開催する。 今国会で、国民投票法案が審議らしい審議もされず強行採決されようとしている。この先には憲 法九条の「改正」があり、自民・公明両党の暴挙を阻止しなければならない。今年度も憲法問題 に関するシンポジウムを開催し、平和運動に取り組む。

(2) 新会員獲得活動と班活動活性化を行なう。

手紙、電子メールなどを活用して知人に入会を勧める。また、研究会や班活動を活性化し、他団体との交流を深め会員を獲得する。

(3) 九州シンポに参加する。

加えて 2008 年度九州シンポの準備を行なう (福岡で開催予定)。

- (4) JSA 公害環境委員会とシンポジウム開催に協力する (9月第2週、会場は水俣を予定)。
- (5) 原水禁科学者集会など原水爆禁止運動に協力する。

1.3 新役員

事務局長 青野雄太 (九大工学部班) 常任幹事 田中健夫 (九大六本松班)

中野豊 (九大理農班)

幹事 岡本良治 (北九州分会)

河内俊英 (久留米分会) 岸本誠 (個人会員)

藤井哲 (個人会員)

会計監査 望月俊宏 (九大理農班)

全国参与 杉浦實 (個人会員)

森茂康 (個人会員)

全国幹事 青野雄太 (事務局長が兼任)



5月12日 研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」案の学習会

2 研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」学習会の報告

湯淺精二氏 (科学者の権利問題委員会 副委員長 / 元大阪大学・大阪支部) に『研究者の「権利・地位宣言」「倫理綱領」の作成』と題して講演をいただきました。以下、同氏のレジメと 16 総学予稿集 p.272 「委員会からのコメント」を参照しながら報告します。

1. 作成の経過

1948年世界科学者連盟創立総会において、「科学者憲章」が採択されたのをはじめ、「研究者」の権利に関する取り組みが戦後一貫して進められてきた。わが国では、「JSA 科学者の権利問題委員会」が 1990年代の始めから、この問題への取り組みを強めてきた。そこでまずユネスコをはじめとする権利問題の資料を収集し、その成果を 1995年「科学者の権利と地位」として刊行した。今回の「宣言 (Ver.5)」(「日本の科学者」vol.42, no.5 付録)は約 15年におよぶ調査・研究・討議の集大成というべきものである。

2. タイトルと研究者・科学者の呼称について

16 総学予稿集より引用する。世界科連やユネスコなどでは科学研究者 (science researcher) とか、科学労働者 (scientific worker) とかいうような呼称が用いられており、JSA も「科学者・研究者・技術者」と並列したこともあった。今回は呼びかける対象をなるべく広げたいという気持ちから並列を避け、「研究者」という呼称にした。

「科学者」という呼称には近づきがたいという印象を持つ人が少くない。とくに人文系の人は、自分は科学者ではないと考えている人が少なくない。これは「科学」というものを自然科学としてとらえる風潮が、日本ではまだ強いためであろう。

「研究者」と言えば技術者も技術の研究者であり、教員も教育実践の研究者であり、人文系の人も「研究者」という呼称には抵抗はないと考えたからである。「科学労働者」という呼称は英語の worker と日本語の労働者とでは語感が違うのでとらないことにした。

呼称には異論はあるかもしれないが、基礎・応用、自然・人文という分野を問わず研究に携わるすべての人に訴えたいという気持ちを受けとめてもらいたい。

3.「宣言」の呼びかけの対象範囲

政府統計では、「研究者」の 60% 以上が民間企業に所属している。圧倒的多数を占める民間研究者の当該問題が解決されないかぎり、研究者の地位向上と権利の確立は期待できないところから、民間研究者へ比重をかけながら広く、「研究者」組織をターゲットにしている。

4.「権利・地位宣言」と「倫理綱領」を一体のものとして

日本学術会議も「科学者の行動規範」の策定にのり出したが、権利保障を伴なわない「行動規 範」はかえって危険であろう。「宣言」のように一体のものとして提起することが重要である。

文書 (Ver.5) は「日本の科学者」vol.42, no.5(2007) は付録にあります。10 頁の短いものですので、是非読んで意見をお寄せ下さい。16 総学予稿集は支部事務局でまとめて取り寄せますので、御希望の方は支部事務局まで御連絡下さい (1 部 1000 円)。

(岸本誠)

3 談話会のお知らせ

近年、大学教員の多忙化などのため、福岡支部に限らず JSA の会員が減っています。その一方で、憲法「改正」の動きや格差社会、環境破壊などの問題は重要性を増しており、科学者会議は今まで以上にその活動が期待されています。

このような状況の中、東京支部では第 16 回総合学術会議の地元開催を機に、久しぶりに会員が増勢となりました。これは東京支部の地道な勧誘活動の成果ですが、一方で科学者会議の存在意義を再確認できたと言えると思います。

福岡支部幹事会でも活動活性化について検討しました。その結果、会員が顔を合わせる場をつくることと、入会の呼びかけを兼ねて、談話会を開催することにしました。

当面は6月と9月に行なわれる福岡環境研究会の例会に講師を派遣し、共催という形にしたいと思います。交通の便の良い天神アクロスで開催します。お近くの友人とお誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

6月の福岡支部談話会(福岡環境研究会と共催)

テーマ:学生の主体性を培う修学環境とは 学生相談の視点から

講 師:田中健夫(九州大学)

日 時:6月30日(土曜日)午後5時~6時30分

場 所: 久留米大学福岡サテライト (天神・アクロス福岡東オフィス 5 F /092-737-3111)

参加費:100円

大学教育といえども、学生の主体性に任せることはできなくなってきています。私立大学はもちろん、法人化された国立大学においても、修学環境を整え、学生教育を充実させなければならない状況です。 今回、田中先生がお話くださる主な内容は、

・ 最近の学生は、自分のことを「生徒」と呼んでいる?

- ・ 大学生活への適応や自己評価の規定因として"学業(修学)"の文脈はきわめて重要
- ・ 学生相談の機能と来談状況の実態
- ・ 学生期ごとの修学上の行き詰まりの諸相 (入学期/中間期/卒業期)
- ・ 大学教育へとつなぐ視点

などです。学生相談の実践を通して見えてくる大学生の実態と大学教育の課題などについてのお話がうかがえるものと思います。また、大学生に限らず、「大人」には理解しにくい現代の青年一般にも通じるところが多々あると思われます。「このごろの若い者は・・・」と言う前に、ぜひご参加ください。

9月の福岡支部談話会(福岡環境研究会と共催)

演 題:電磁波の生体への影響と予防原則

講 師:岡本良治(九州工業大学)

日 時:9月1日(土)午後4時~5時30分

場 所: 久留米大学福岡サテライト (天神・アクロス福岡東オフィス 5 F/092-737-3111)

参加費:100円

なぜ、今、電磁波問題をとりあげるか

電磁波をめぐる基礎的知識

生物、生体とはどんなシステムか

電磁波の生体への影響とその特徴

生体への影響発現をめぐる論争点

過去の教訓、現在の科学的知見の有効性・不確実性と予防原則

まとめ(目指すべき展望)

4 福岡環境研究会のお知らせ

環境研の予定をお知らせします。事務局・藤井の転勤のため、email、電話ともに連絡先が変更になっています。今後のご連絡は、下記までお願いいたします。

福岡環境研究会事務局連絡先 藤井美保 Email:mfujii@rice.ocn.ne.jp

河内俊英 Tel: 0942-31-7535(久留米大学・河内研究室)

6月例会 (JSA 福岡支部談話会と共催)

テーマ:学生の主体性を培う修学環境とは 学生相談の視点から

講 師:田中健夫(九州大学)

日 時:6月30日(土曜日)午後5時~6時30分

場 所: 久留米大学福岡サテライト (天神・アクロス福岡東オフィス 5 F /092-737-3111)

参加費:100円

7月例会

演 題:養護学校の体験から

講 師:堤 静雄

日 時:7月28日(土曜日)午後4時~5時30分

場 所: 久留米大学福岡サテライト (天神・アクロス福岡東オフィス 5 F /092-737-3111)

参加費:100円

養護学校の体験から

1) 視野の広がり 社会観の広がり

白黒の世界からカラーの世界へ

施設の多さ

関心がなければ目に入らない 花もそうだった

2)数学(担当科目は数学)

好意的な周囲の誤解 ここでこそ真の数学教育

「数学の授業ができなくなったね」

問題点がよく見える

順序数と集合数

現場教員の遅れもある

専門外 教科書よりも遅れ

久保田の例「どちらが多いか」

時計の読みの指導

3) 英語と日本語

英語の方が発音しやすい人もいる

内藤 前田の例

4)能力の凹凸

自閉症者の特別の才能

カメラのような記憶力

曜日 時刻表 電話帳 写真の記憶

同時処理と継次処理

ダウン症者

社交的 LD 空間認識

- 5) ADHDの原因と環境問題
- 6)養護学校批判

教科の手抜きという批判

誤解と正解がある

原因に無関心

虫歯があってこそ歯医者の存在価値

自閉症の人からの反論 障害とは何か 少数が障害者か

学校教育の諸問題

調停機関の設置

保護者とのトラブルに対して

複数の教員による授業を

数学教育は登山

芸術の教員の各校配置

9月例会 (JSA 福岡支部談話会と共催)

演 題:電磁波の生体への影響と予防原則

講 師:岡本良治(九州工業大学)

日 時:9月1日(土)午後4時~5時30分

場 所: 久留米大学福岡サテライト (天神・アクロス福岡東オフィス 5 F /092-737-3111)

参加費:100円

5 「日本の科学者」読書会と夏期合宿のお知らせ

毎月第 2 月曜日 14 時~17 時に,NPO 共同事務所「びおとーぷ」(福岡市博多区博多駅前 3-6-1, Tel : 092-433-5523(芹田さん取次)) にて、雑誌「日本の科学者」について有益かつ活発な討論を続けています.新参加を歓迎します.

今年も 8 月 19 日 (日) 正午より 20 日 (月) 正午まで,湧水千石の郷 (早良区石釜 333-2) にて合宿の勉強会を予定しています.テーマは「IPCC 第 4 次評価報告書第一部会報告書,政策決定者向け要約」およびレイチェル・カールソン「沈黙の春」です.(費用は約¥10,000+交通費,昼食代,アルコール代の予定).予約してある宿泊室の余裕がありますのでふるってご参加ください.希望者は藤井 [Fax.0925917384] まで連絡してください.

(藤井 哲)

6 エネルギー研究会のお知らせ

エネルギー研究会は有志が集まって、エネルギーと食料について研究会を行なっています。最近は「自然エネルギー戦略 "エネルギー自給圏"の形成と市民自治」(自治体研究社) の読書会を中心に、各メンバーが話題を持ち寄って議論をしています。基本的に毎月第 3 土曜 $14 \sim 17$ 時に NPO 共同事務所「びおとーぷ」(福岡市博多区博多駅前 3-6-1, Tel: 092-433-5523(芹田さん取次)) で行なっています。学生の参加もあり、活気が出てきました。参加希望の方は藤井 (080-3960-9981) もしくは青野 (090-9486-1374) まで連絡下さい。

(青野雄太)

7 次期大会の日程について

幹事会では次期大会の日程を 2008 年 5 月 10 日に仮決定しました。また、会場は福岡市内を予定しております。皆様、万障お繰り合わせの上、御参集下さい。